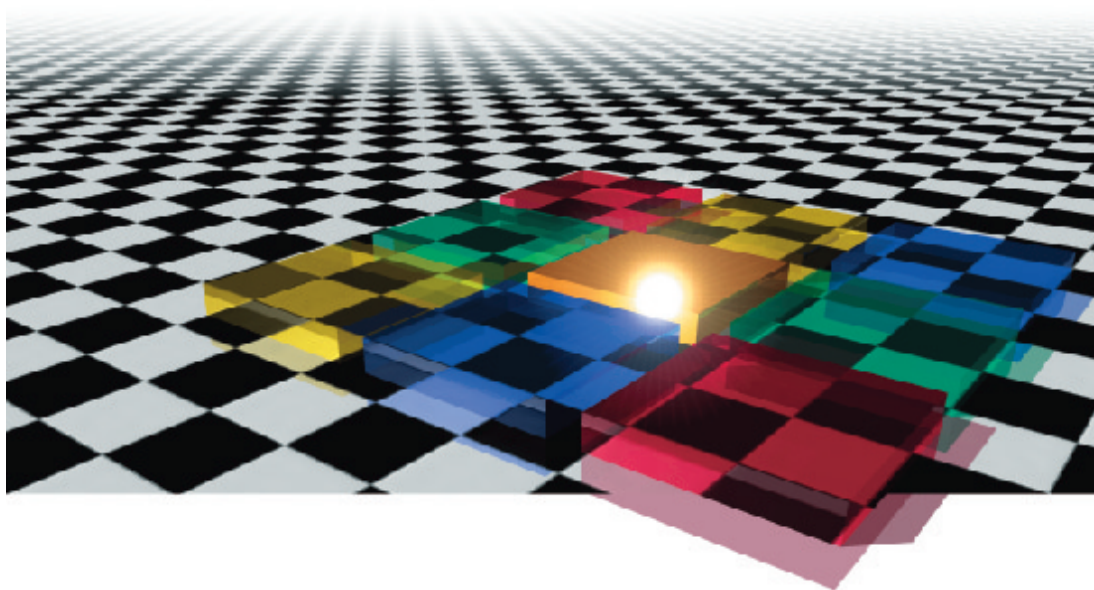


## PostScriptファイルの作成

QuarkXPress 4.1r2J

MacOS 9.0 + LaserWriter 8.7

この文書の内容は、FACILIS IM Ver3.0、  
Ver3.5に対応しています。



PostScriptファイルは、DTPソフトとOS、プリンタドライバの組み合わせにより、いくつかのバリエーションがあります。FACILIS IMで面付けする際には、このドキュメントをよくお読みの上、以下の点に注意してPostScriptファイルを作成してください。

PostScriptファイルを作成する前に、ハードディスクの空き容量を十分に取っておいてください。空き容量が不足している場合は、異常にファイルサイズが小さい、内容の欠けたPostScriptファイルが作成されます。

FACILIS IM Ver3.0からは、コンポジットファイルと色分解ファイルを混在して面付けできるようになりました。ただし、DTPソフトによってはコンポジット出力だけにしか対応していないものもありますので、色分解可能なコンポジットファイルや色分解ファイルと混在させる場合には注意してください。

また、コンポジットファイルと色分解ファイルを混在させた際に正常に出力できない場合は、どちらかの形式に統一して面付けを行ってみてください。特に、面付け後の色分解に問題がある場合は、色分解ファイルに統一して面付けを行ってみてください。

カラーの画像データをDTPソフト上で貼り込む際には、CMYK形式になっているものを使用することをおすすめします。RGB形式のカラー画像データでもCMYKに変換して出力できるRIPもありますが、色味の微妙な違いが出る場合があります。

画像データをDTPソフト上で貼り込む際には、EPS形式やTIFF形式などの、ひとつの画像フォーマットに統一する方が、出力トラブルを減らすことができます。

DTPソフト上でDCS ( Desktop Color Separation ) 形式のファイルを貼り込んだ場合は、色分解を行ってPostScriptファイルを作成してください。コンポジットで作成すると、DCSの機能が正常に働かなくなります。

特色を持つデータの色分解出力では、以下の点に注意してください。

PostScriptファイル（またはEPSファイル）に、特色に関するDSC ( Document Structuring Convention : 文書構造化の規約 ) コメント ( %%DocumentCustomColors:、%%CMYKCustomColor: ) が存在し、かつB-Makerで正しい特色名が指定されていなければなりません。

特色名には、半角小括弧、つまり '(' と ')' は使用しないでください。また、特にAdobe Illustrator では、日本語の使用は避けてください。

PostScriptファイルを作成する際は、出力環境に合ったPPD ( PostScript Printer Description ) ファイルを使用してください。最新のPPDファイルは、出力機のメーカーから入手することができます。

RIPやプリントサーバでOPI ( Open Prepress Interface ) 機能を使用する場合は、各システムの取扱説明書を参照してください。

補助メニューの「使用状況...」を選択して、フォントと画像の使用状況を確認してください。



ドキュメント中で使用されているフォントの名前の前に「- (マイナス記号)」の表示がある場合には、別のフォントに置き換えるか、RIPにそのフォントを新たにインストールしてください。



全ての貼り込み画像の、印刷が「オン」(チェックマーク付き)で、状況が「OK」であることを確認してください。

状況が「移動」か「更新」と表示されている場合は、その項目をリストから選択して(ハイライト表示)「更新...」ボタンをクリックしてリンクを張り直してください。

次に補助メニューの「PPDマネージャー...」を選択してください。



目的の出力機のPPDファイルの使用が「オン」(チェックマーク付き)になっていることを確認してください。

アップルメニューから「セレクト」を選択してください。



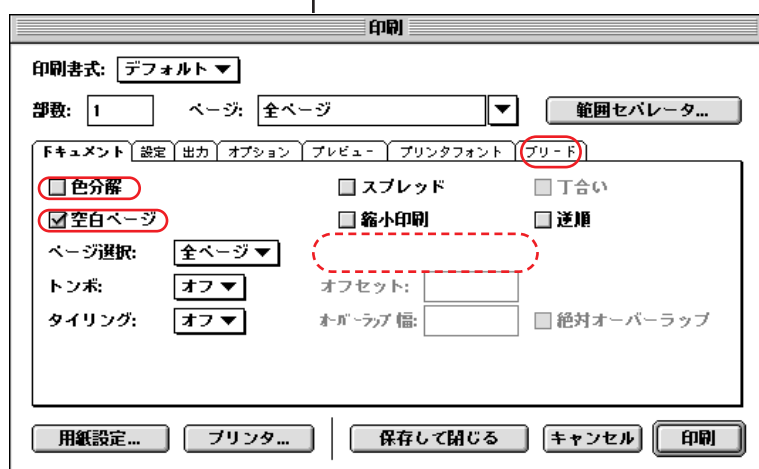
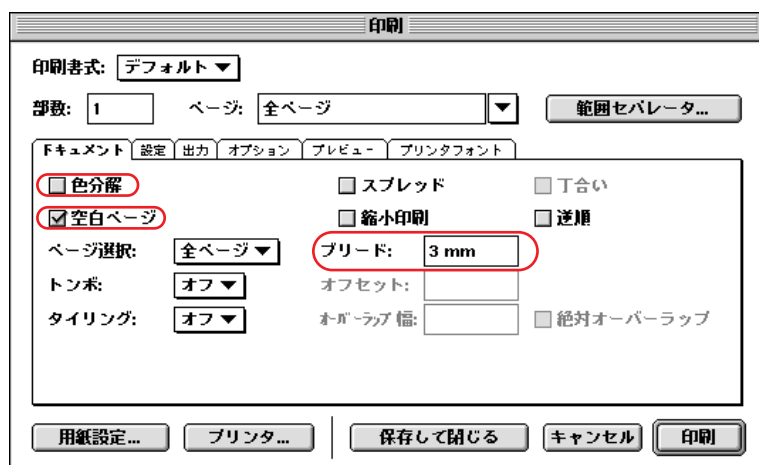
「LaserWriter8」を選択し、右側のリストに表示された中から、目的の出力機を選択してください。

QuarkXPressに戻り、ファイルメニューから「ドキュメント設定...」を選択してください。



ページのサイズを確認してください。

ファイルメニューから「印刷...」を選択してください。



部数：「1」に設定してください。

ページ：PostScriptファイルに書き出したい範囲を設定してください。

色分解：色分解したPostScriptファイルを作成する場合はチェックしてください。コンポジットファイルを作成する場合はチェックしないでください。（下の参照）

空白ページ：チェックしてください。文書に白紙ページが含まれている場合は、このチェックをしないと、白紙ページをスキップしてPostScriptファイルを作成するため、ページの順序がずれてしまいます。

ページ選択：通常は「全ページ」を選択してください。

トンボ：チェックしないでください。FACILIS IMで面付けする際には、ページごとのトンボは不要です。また、必要なトンボはFACILIS IM側で設定することができます。

タイリング：「オフ」を選択してください。

スプレッド：チェックしないでください。

縮小印刷：チェックしないでください。

丁合い：チェックしないでください。

逆順：通常はチェックしないでください。ページの並びを逆順にする必要がある場合には、FACILIS IMでPostScriptファイルを面付けするとき逆順で割り付けることもできます。

ブリード：裁落し（塗り足し）幅を入力してください。ここで裁落し幅を設定しないと、面付け時に裁落し部分が出力されません。

また、XTensionに「Custom Bleeds XT」が入っていると、下図のようにドキュメントタブの設定項目からブリードがなくなり、別にブリードタブが出現します。裁落しの設定はこのブリードタブで行います。

次ページの設定タブで選択するPPDファイルによっては、コンポジットファイルを作成するとカラーの情報を持たないグレースケールデータになってしまう場合があります。これは、QuarkXPressがPPDファイル中の「\*ColorDevice:」の設定項目を参照してデータを書き分けているためです。PPDファイル中に「\*ColorDevice: True」と書かれていれば、カラーの情報をを持ったコンポジットファイルが作成されます。

設定タブをクリックしてください。

プリンタ記述：目的の出力機の PPDファイルを選択してください。選択した PPDファイルの持つスクリーン設定値は、次の出力タブで確認、設定することができます。(下の 参照)

用紙サイズ：ドキュメント設定で確認したページのサイズを選択してください。定型サイズにはないカスタムサイズの場合は「カスタム」を選択して、下の「用紙の幅」、「用紙の高さ」、「ページ配置」の設定を行ってください。

用紙の幅：カスタムサイズの場合は、手入力で設定してください。ここで設定した数値が FACILIS Mが

認識する用紙サイズになりますので、よく確認してください。

用紙の高さ：カスタムサイズの場合は、手入力で設定してください。ここで設定した数値が FACILIS Mが認識する用紙サイズになりますので、よく確認してください。

縮小率/拡大率：通常は「100%」に設定してください。

ページ配置：用紙サイズが定型サイズの場合は「左端」を選択してください。カスタムサイズの場合は「センター」を選択してください。この設定が正しくないと、面付けしたときにページの位置がずれずれます。

印刷領域に合わせる：チェックしないでください。

方向：「縦方向」(左側のアイコン)を選択してください。ここでいう方向は用紙の向きではなく文書の置き位置ですので、横長ページの文書であっても「縦方向」を選択することになります。

選択する PPDファイルによっては、コンポジットファイルを作成するとカラーの情報を持たないグレースケールデータになってしまう場合があります。これは、QuarkXPressが PPDファイル中の「\*ColorDevice」の設定項目を参照してデータを書き分けているためです。PPDファイル中に「\*ColorDevice: True」と書かれていれば、カラーの情報を持ったコンポジットファイルが作成されます。

出力タブをクリックしてください。

印刷	版	ハーフトーン	線数	角度	網点形状
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスシアン	-	65	15°	デフォルト
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスマゼンタ	-	65	75°	デフォルト
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスイエロー	-	65	0°	デフォルト
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスブラック	-	65	45°	デフォルト

印刷	版	ハーフトーン	線数	角度	網点形状
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスシアン	-	65	15°	デフォルト
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスマゼンタ	-	65	75°	デフォルト
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスイエロー	-	65	0°	デフォルト
<input checked="" type="checkbox"/>	プロセスブラック	-	65	45°	デフォルト

を確認してください。

版：ドキュメントタブで「色分解」をチェックしていない場合は、「白黒」、「グレイスケール」、「コンポジットCMYK」が選択可能です。「色分解」をチェックしている場合は、「プロセス版に変換」と「プロセス&スポット」が選択可能です。お使いのワークフローに合った形式を選択してください。  
ハーフトーン：「計算値」を選択することをお勧めします。スクリーン設定は、DTPソフト、FACILIS IM、RIPの3ヶ所で行うことができますが、どこで設定した値が有効になるかはRIPによって異なります。そのため、設定値が各所ではばらばらになっていると、目的の出力結果が得られない可能性があります。それを防ぐためには、ここで「計算値」を選択して確実に入力、設定しておくことが望ましいです。

解像度：出力機が出力可能な解像度が選択可能ですので、目的の解像度を選択してください。  
線数：目的の線数を選択するか、直接数値を入力してください。また、下の色のリストの項目を選択して（ハイライト表示）「線数」、「角度」、「網点形状」のポップアップメニューを使って設定値を変えることができます。

出力する色の左側にチェックマークが付いていること

オプションタブをクリックしてください。



Quark PostScript Error Handler : チェックしないでください。

ページフリップ : 「なし」を選択してください。製版工程の都合で版画像を鏡像にする必要がある場合には、FACILIS IM側で鏡像設定を行えます。

ネガ印刷 : チェックしないでください。製版工程の都合で版画像をネガにする必要がある場合には、FACILIS IM側でネガ設定を行えます。

出力 : 「標準」を選択してください。

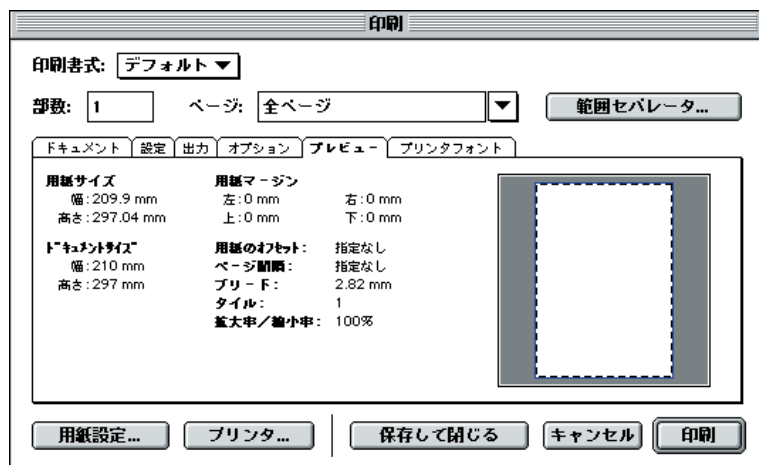
データ : 「バイナリ」を選択してください。

OPI : お使いのOPIシステムに合わせて設定してください。

EPSブラックのオーバープリント : 任意です。

プリンタ解像度でTIFF出力 : 任意です。

プレビュータブをクリックしてください。



このタブには設定項目はありません。

プリンタフォントタブをクリックしてください。

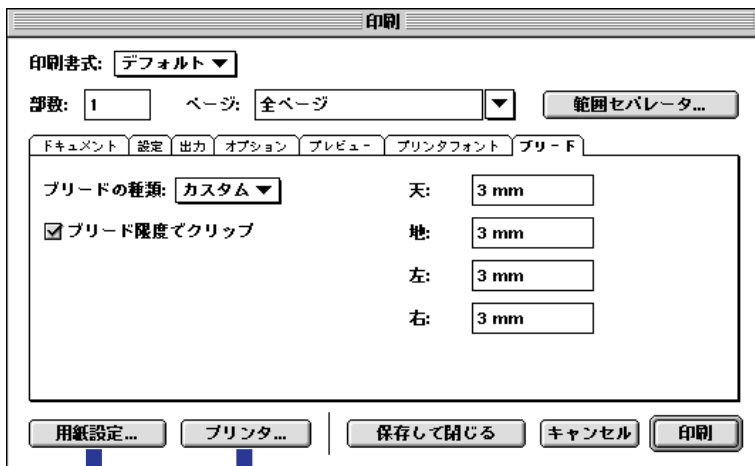


「検索開始」ボタンをクリックして、選択している出力機の持つフォントの確認を行ってください。「ポストスクリプト印刷」と「プリンタ上」にチェックマークの付いたフォントが出力可能です。

10ページへ

11ページへ

ブリードタブが表示されていたら、ブリードタブをクリックしてください。



「Custom Bleeds XT」XTensionを使用している場合は、ここで裁落し（塗り足し）の設定を行ってください。ここで裁落し幅を設定しないと、面付け時に裁落し部分が出力されません。

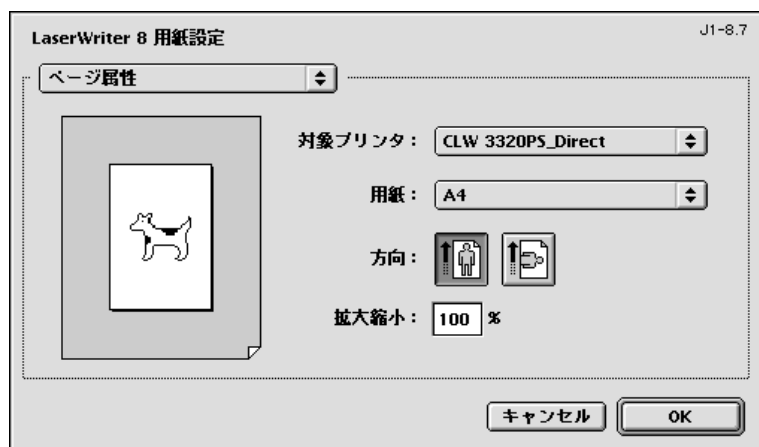
ブリードの種類：「カスタム」を選択してください。  
ブリード限度でクリップ：チェックしてください。

天、地、左、右：ページのそれぞれの辺の裁落し幅を設定してください。

10ページへ

11ページへ

「印刷」ダイアログの「用紙設定...」ボタンをクリックしてください。



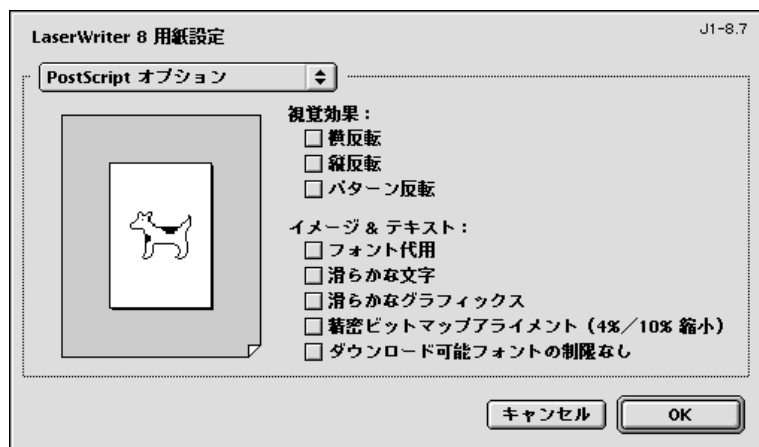
対象プリンタ：出力機の名称やRIPで設定した仮想プリンタ名などが選択されていることを確認してください。

用紙：PostScriptファイル作成の場合には特に関係はありませんが、文書の用紙サイズと同じ設定にしておくとい良いでしょう。

方向：「縦方向」(左側のアイコン)を選択してください。PostScriptファイル作成では、ここでいう方向は用紙の向きではなく文書の置き位置ですので、横長ページの文書であっても「縦方向」を選択する

こととなります。

拡大/縮小：通常は「100」%に設定してください。



全ての設定項目：チェックしないでください。

FACILIS IM Ver3.0からは、「ダウンロード可能フォントの制限なし」をチェックしなくても面付けできるようになりました。

「OK」ボタンをクリックすると、QuarkXPressの「印刷」ダイアログに戻ります。

「印刷」ダイアログの「プリンタ...」ボタンをクリックしてください。

プリンタ: CLW 3320PS\_Direct      出力対象: ファイル

一般設定

部数: 1     丁合い

ページ:  全ページ  
 ページ指定: [ ] ↔ [ ]

給紙元:  全体: 自動選択  
 1枚目: 自動用紙選択  
残り: 自動用紙選択

設定の保存      キャンセル      保存

プリンタ: 「セレクト」で選択した出力機や仮想プリンタが選択されていることを確認してください。  
出力対象: 「ファイル」を選択してください。

部数: 「1」に設定してください。  
丁合い: チェックしないでください。  
ページ: 通常は「全ページ」を選択してください。  
給紙元: 「全体」を選択して、「自動選択」を選択してください。

プリンタ: CLW 3320PS\_Direct      出力対象: ファイル

カラー・マッチング

カラー指定: カラー/グレイスケール

マッチングスタイル: 自動的に選ぶ

プリンタ用プロファイル:  出力先の ColorSync プロファイルを使う  
<<指定なし>>  
 プリンタの省時設定

設定の保存      キャンセル      保存

カラー指定: 「カラー/グレイスケール」を選択してください。

プリンタ: CLW 3320PS\_Direct      出力対象: ファイル

バックグラウンドプリント

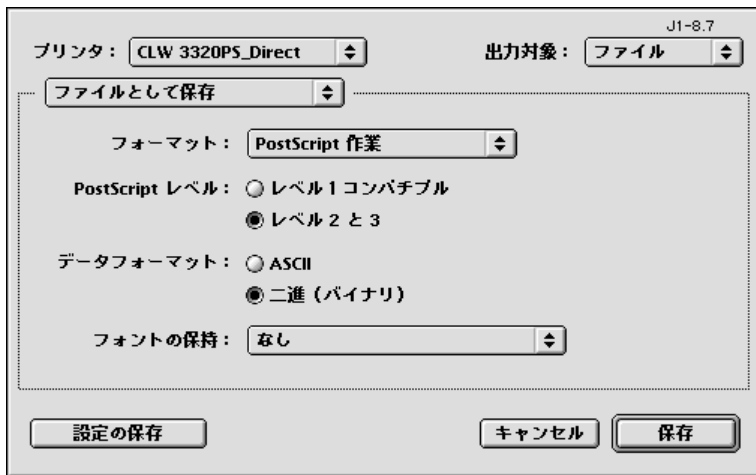
処理方法:  フォアグラウンド (スプールファイルなし)  
 バックグラウンド

プリント時刻:  至急  
 標準  
 日時を指定: 8:00 PM    2000/04/24  
 保留

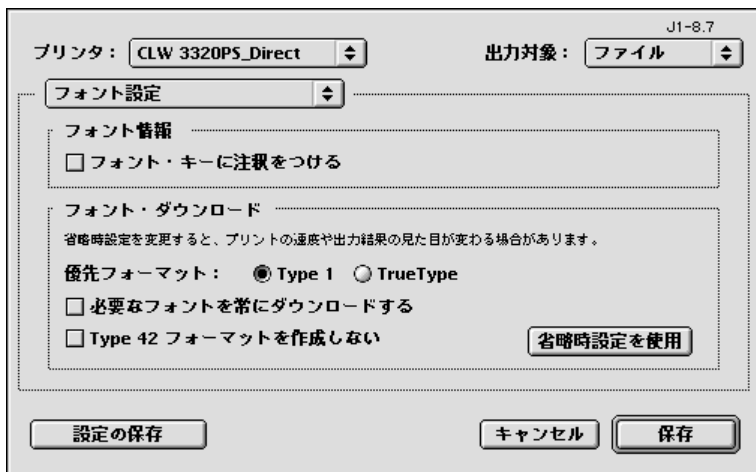
設定の保存      キャンセル      保存

処理方法: 「フォアグラウンド (スプールファイルなし)」を選択してください。

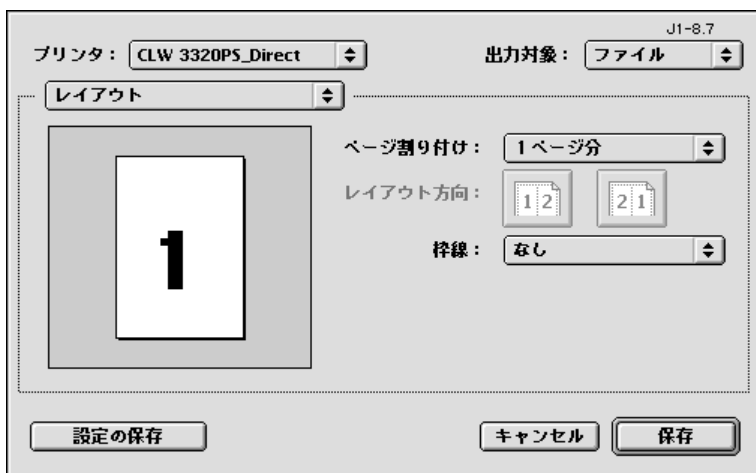
バックグラウンドで印刷処理を行うと、印刷処理中に他の作業を行えるため、トラブルが発生する確率が高くなります。



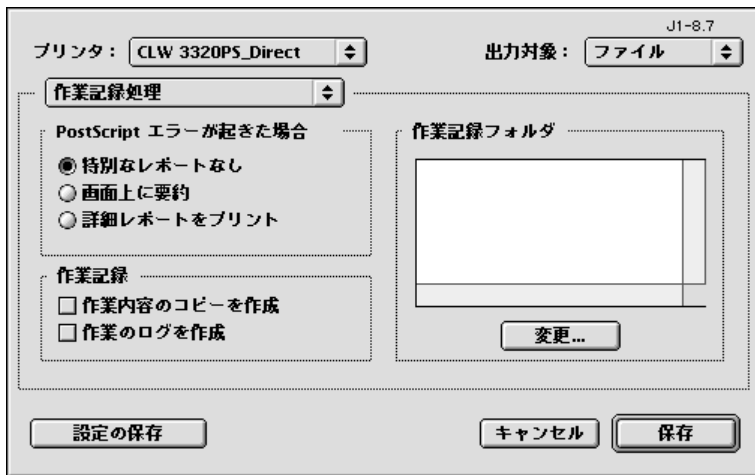
フォーマット：「PostScript作業」を選択してください。  
 PostScriptレベル：「レベル2と3」をお勧めしますが、レベル1の出力環境を使う場合は「レベル1コンパチブル」を選択してください。  
 データフォーマット：「二進（バイナリ）」を選択してください。  
 フォントの保持：「なし」を選択してください。



出力環境に合わせて設定してください。



ページ割り付け：「1ページ分」を選択してください。  
 枠線：「なし」を選択してください。



PostScriptエラーが起きた場合：通常は「特別なレポートなし」を選択してください。  
作業記録：通常はどれもチェックしないでください。



表紙のプリント：「なし」を選択してください。

「保存」ボタンをクリックすると、ファイル保存ダイアログが表示されます。



PostScriptファイルの保存先と、ファイル名を設定して「保存」ボタンをクリックしてください。

FACILIS IM Ver3.0からは、ファイル名の最後は".ps"などの所定の拡張子になっていないと、面付け対象ファイルとして認識しないようになりました。

「保存」ボタンをクリックすると、QuarkXPressの「印刷」ダイアログに戻ります。



「印刷」ボタンをクリックすると、PostScriptファイルの作成が開始されます。

#### 商標について

PostScriptはアドビシステムズ社の登録商標です。

QuarkXPressはクオーク社の商標です。

MacOS、LaserWriterはアップルコンピュータ社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。